

ネイチャーセンター 準備室だより



写真：太齋彰浩

アカモクの寿命は1年で、春過ぎには根元から切れ、海面を漂う「流れ藻（ながれも）」になります。そして沖へ出た流れ藻はサンマやトビウオなどの重要な産卵場所となり、一生を通じて様々な生き物の揺りかごとしての役目を果たします。

アカモクは「ギバサ」と呼ばれ食用にもされます。日本海側ではギバサ汁は春の風物詩と言えるでしょう。独特的のヌメリには豊富な食物繊維が含まれ、美容と健康にも効果が期待できます。この春、アカモクをはじめ様々な海藻たちを味覚で味わい、海をより身近に感じてみてはいかがでしょうか。

春は海藻たちがイキイキする季節。水は冷たくとも、日の光をいっぱい浴びてその葉を広げていきます。その中でもアカモクは特に大きく（長く）成長する海藻で、水面に向かつてグングン体を伸ばしていきます。時には10mを越え、水面に達した後、そのまま横方向に伸びていくことも。実は、アカモクは空気が入った袋（浮袋）を持ち、その浮力で海中で直立することができるのです。

アカモクの 海中林

編集後記

▶現在、ラムサール条約登録に向けて動いている南三陸町の志津川湾。そんな志津川湾には、貴重で多様な生物が生息しているといいます。▶今月の表紙は、志津川湾海底にて撮影された「ヘイゴコロ」という紅藻です。海底調査の時に撮影されたという写真をネイチャーセンター準備室からいただきました。陸上だけではなくて、海中にも目を向けてみると、こんな綺麗な景色があるんですね。▶そんな海を含めた南三陸町の自然を学べる機会があります！ 詳細の記事は15ページに掲載しておりますので、ぜひ、お越しください♪

小野寺

わが家のアイドル



佐々木 珠鷺

(@平磯)

平成28年6月5日生まれ

パパ 龍一さん

ママ みゆきさん

おうちの方から一言

大きな目が魅力的な珠鷺ちゃん。その笑顔はやさしい春風のよう。ママのように強く元気で美しい女性になってね。